

よりよい福祉教育を考える

豊橋の教職員対象にセミナー

豊橋市内の教職員を対象とした福祉情報セミナーが24日、同市総合福祉センター「あいトピア」で開かれ、福祉に関心のある小中高校、豊橋養護学校の教諭ら16人が参加した。

福祉活動・団体と学校との情報交換の機会を提供し、福祉教育へのよりよい取り組みにつなげてもらおうと市社協が毎年、夏休み期間中に開いている。

セミナーでは、NPO法人「ほがらか」(発

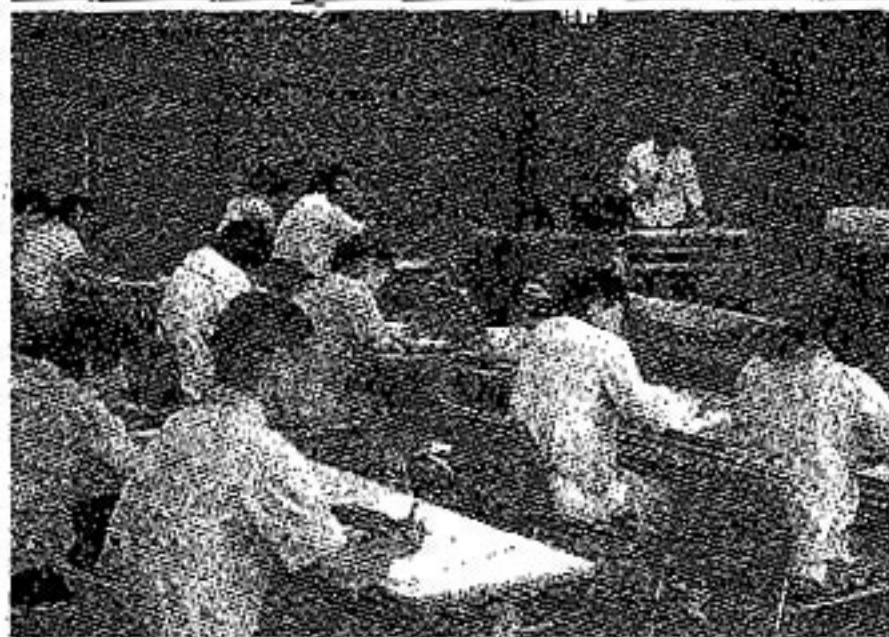
達障害の子どもと家族を支援する会)の池田信子理事長が「特別な支援が必要な子どもとその保護者の現状と受容と傾聴から理解へとつなげる」と題し講演した。

発達障害のある子を持つ池田さんは、体験談も交えながら「家庭教育、社会教育、学校教育の連携が大切。医療・福祉機関ともつながりを持ち、時には専門家に任せる部分も必要では」など、家族・

支援者の立場から今後の「学校教育」への参考になりそうな意見を提案。ワークシートを使ったグループワークも行い、参加者は熱心

に取り組んでいた。講義後は、杜協職員による福祉教育へのサポート体制についての説明も行われた。

(田中博子)



セミナー「あいトピア」で
教職員16人が受講した